

# Structure Kansai No 3 '83.2

## 新年をむかえて

### 新春に想う

久徳敏治

当会が組織化されて3年目にさしかかりました。この間、設立の主旨、目的も一応は理解され、地道ながら活動も板についてきましたが、3年目ということで一つの淀みの時期にも到っています。

この期に当って、発足当初の少数精鋭的な集団としての発想を考え直す時期として、とらえたいと思います。

かねがね気になっていたことですが、構造計画も含め構造設計を具体的にイニシアティブをもって行っている20才代後半から30才代前半の方が当会に参画していないということが矛盾として琴線をしげきします。実情に即するという点で、また社会的認知を前提とする面からも、こと構造設計に係りあいのある技術者すべてを包括した職能的集団へと成長することを、期待をもって望みたいと思います。

### 研鑽の年

青柳 司

新年明けましてお目出とうございます。とはいうものの今年は去年にもまして不況のようです。こういう時は充電して時を待つより仕方ないと思います。去年は新耐震で振りまわされ、構造家懇談会の技術委員会も他の問題には手をだせなかったようです。昨年末技術委員会の本格的活動のための組織案がだされ、今年は各分野(鉄・RC・PC及プレファブ・基礎・コンピュータ・耐震設計)に分れ

部会を持つことになりました。関西支部としては各部会に委員を送り、支部としても本部と対応した委員会(仮称)を作り関西の会員の研究・開発の場としたいと思っています。近々第2委員会ですべて具体的な活動方法の検討をしますので、実現の折には進んで参加して下さいを願っています。幸運は自分で引きよせていくではありませんか!

### 実態調査の実施

能勢善樹

構造家懇談会ができる契機の一つに、士法問題がありました。昨年後半、建築審議会基本問題委員会の答申が出されることになって、遅まきながらも、会が発足してよかったと、思います。第一次答申では構造部門は置いてきぼりを喰ったような形ですが、あわてることもないと思います。建築設計の中味の専門分化に適応して行く、本当の意味での近代化するためには、各専門分野が力をつけて行くことが条件であろうと思われま。吾々が社会に、少なくとも建築設計界に、その存在意味を納得させるデータに欠けていたことは、認めざるを得ません。今年度企画の「構造の国勢調査」に、私は今年最大の期待をします。吾々自身の自覚のためにも、社会に対するアピールのためにも。

### 質の良い構造を

樋口元一

最近ではコンピュータが性能の向上と

普及によって、構造設計者の頭脳労働と手作業の大部分を肩代りし、計算書の作成から構造図の作図に至るまで処理範囲を拡げようとしている。構造設計者は次第に機械的作業から解放され、必要な判断用のデータを検討したり、よい設計を追求することが出来るようになって来た。又一方では新耐震設計法によって、外力と必要保有耐力の考え方がより進展したことも事実である。しかし実際に出来る上る構造物がバランスのとれた質のよいものとなっているかどうかとなると何ともいえない面がまだ多分に残されているように思われる。実際の建築物を生み出すプロの構造家の集団である構造家懇談会が、設計面も材料や製作・施工面の問題をも総合的に狙上りにのせてその意見を大いに主張して貰いたいと考えている。

### 活動の発展

林 保

新春にあたって、会員各位の御繁栄と御健祥を祈ります。

さて、構造家懇談会関西支部も発足以来二年目を迎えて、活動内容も徐々に充実しつつあります。今年はおお一層の発展と充実をめざして頑張りたいと考えています。

今年の景気の見通しはまだ明るいとはいえませんが、この時期にこそ技術力の蓄積が必須と考えます。具体的には、内には会員親睦をより以上に深めること、および研究課題はより魅力のあるものとして技術の向上を計り、外には広報・事業を通じて構造家懇談会を積極的にPRすることが必要と思います。是非共会員各位の多大な協力をお願いします。



関西支部において初の公開講演会が参加人数154名を以って開催されました。

#### ● 関西支部設立記念文化講演会

日時 昭和57年11月27日(土) 14:00~17:00  
場所 大阪府立労働センター  
司会 青柳氏、久徳支部長あいさつ  
演題 “大阪の将来を考えるにあたって”  
大西英雄氏(大阪市総計局長)  
“構造雑感”

鷲尾健三氏(大阪大名誉教授)  
“建築家と建築デザイン”

榎 文彦氏(東京大学教授)

#### ● 関西支部忘年懇親会 司会 馬瀬氏

日時 昭和57年11月27日(土)  
17:30~20:00  
場所 大阪キャッスルホテル  
出席者 来賓 小堀鐸二氏、榎文彦氏  
会員 木村副代表他37名  
賛助会員9名 合計47名

## 構造家懇談会関西支部発足1年を省みて

この座談会は、本誌特集記事として掲載するために、当支部広報委員会が企画して開催したものです。今回は会員の中から若手の方々にお集まりいただいて、この1年間の会の活動、将来のあり方等について、御意見をお伺いしたのから内容をまとめたものです。

日時 57年12月18日  
 場所 都市センターホール  
 出席者 馬瀬芳知、山田裕二、川村佳則、佐久間周治、安田光世、日下英雄、和田勉  
 事務局 川崎福則、斉藤幸雄  
 司会 板垣勝善、俣野博

**司会** 当懇談会の関西支部が発足して間もなく1年を経過しますが、今年1年を振り返っていただいてその活動方法、会の将来等について自由な御意見をお聞かせ願いたいと思います。

今日お集まりのメンバーは、構造專業事務所を御自分で経営されている方々を中心にお願いいたしましたのでよろしくお願ひ致します。

普段この会の機関紙では比較的年配の方々に原稿を依頼して来ており、若手の人の意見を掲載する機会が少なかったような気が致しております。そこで今日はあまり表題にこだわらず、日頃感じておられる事を卒直にお話いただいて今後の会の運営活動の参考に致したいと思ひます。

**司会** 今年1年は一口に言って組織作りの年であったと感じています。各委員会、研究会等を実際に行って来ましたが、発足当初のイメージと現在とでは多少会の認識が異って来てはおりませんか。

**A** 会員の皆さんのこの会に対する意識は他の団体に比べて、非常に関心が高いのではないのでしょうか。例えば行事への出席率も良いし、この会誌に対する原稿の集まり具合も良好と聞いております。

**G** 今の関心の高いうちに、はっきりした会の目標を決めて会員にとって十分メリットのある会にする必要があると思ひ

ます。今が最も大事な時期だと思ひています。

**C** それには定例研究会やPDだけでなくもっと具体的に外へ向って行動を起す事が必要ではないかと思ひます。

**○対外PRの方法は……**

**司会** 今、会の目的と活動を外の一般社会へ知らせる必要があるという話が出ましたが、では世間にアピールするにはどんな方法があるとお考えでしょうか。

**H** 私は会のメリットを世間にアピールするためには行政と結びつくべきだと考えます。構造の仕事の原点は建築基準法だし、この法の義務付けによって建築主も建築デザイナーもその仕事を規制され枠をはめられています。将来的には、建築確認審査業務の一部又は全部をこの会へ移管してもらおうとか、建築構造士の資格にしたがって、この会を認定機関として認知してもらおうとかすれば必然的にこの会としてのメリットとか権威とかが出て来ると思ひのだけれど……。

**B** それとやはりクライアントに理解してもらおう努力は必要だと思ひます。良いデザイナー程、構造や設備の意見をよく聞くけど悪いデザイナーは全く我々の意見に耳を貸さない。デザイナーは建築のプロのくせに構造を理解していない人が多いと思ひます。

**司会** 他に対外PRの方法について、何か具体的な方策は考えられませんか。

**C** 他団体の機関紙を活用したらどうかと思ひますが……。諸団体の機関紙では記事集めに苦勞しているし、そういう雑誌の投稿欄へ会として定期的に寄稿してはどうかと思ひます。例えば購買層の広い「日経アーキテクチャー」、「建築士事務所」、「建築と社会」などが考えられます。

**B** そうですね。他の関連団体の抵抗が少ない方法でこの会の存在を自然に受け入れられる方法を考へて行く方が良いと思ひます。

**E** 例えば設管協、建築士会、あるいは事務所協会なんかの役員を兼ねた会員

### 第一委員会広報委員会

の人達を通じて積極的にこの会を前面に盛り立てていただくのも良いと思ひますが……。

**D** もっと行政関係の人にも正会員に入ってもらってはどうか。それから委員会活動にも行政の人に参加してもらった方が良いのではないのでしょうか。事務所協会の委員会活動では会員外の行政の人が委員長になってもらっている例もあります。

### ○会員内部のコミュニケーション

**司会** これまで外部に対するPRの具体的な提案がいくつかありましたが、次に会員相互のコミュニケーションと会員に対するPRの方法について御意見がありませんでしょうか。現在は年4回の予定で“ストラクチャー関西”を発行する事によって支部の動きを簡単にお知らせしているだけなので、会の活動を十分一般会員に知ってもらっているとは思ひませんが……。

**A** 会員自身も参加する努力が必要だと思ひるので各委員会役員も毎年交代で各会員が持ち廻ったらどうかと思ひます。

**I** それと委員会活動やPDを大阪だけでなく各地に持ち廻って、会合の段取りをその地区在住の会員にお願いしたらどうか。

**E** 定例研究会の内容なんかで自分が知りたい事があれば自分で事務局へ問合せて来たらうし、今のところ手取り足取り会員を引張って行く事を考へなくても良いのではないかと思ひます。

### ○構造專業事務所の置かれている立場

**司会** 次に日頃仕事の中で構造事務所の実態を何でも結構ですから具体的にお話願ひしたいと思います。

**C** 先程ちょっと良いデザイナー、悪いデザイナーの話が出ましたが、とにかくデザイナーは構造の専門家を表に出したがる人が多い様です。建築主との打合せに構造担当を同行しないのが普通ですから……。

**A** 私の所もそうです。專業事務所が



●支部の動き

- 10/15 第1委員会報酬分科会—本部のアンケート方式の説明
- 10/18 財務・記念行事等委員会合同委員会—支部設立記念講演会および懇親会の運営について
- 10/19 広報特別委員会
- 10/27 第5回第2委員会—支部設立記念文化講演会について、鉄建協技術懇談会について
- 11/ 8 第2委員会財務委員会—忘年懇親会について
- 11/17 支部理事会—記念文化講演会忘年懇親会、今後の行事について、総会準備について
- 11/19 鉄建協との技術懇談会—鉄骨設計に対する要領
- 11/27 支部設立記念文化講演会—大阪の将来を考えるにあたって（大西英雄氏）、構造雑感（鷲尾健三氏）、建築家と建築デザイン（楨文彦氏）
- 12/ 2 第1委員会広報委員会—支部報№3の企画
- 12/15 第2委員会定例研究会実行委員会—第3回定例研究会実施計画
- 12/17 座談会—支部活動1ヶ年を振り返って
- 58/1/11 広報特別委員会—Structure №6の編集
- 1/14 第2委員会PD委員会—第2回PDの企画
- 1/17 事務局打合せ会
- 1/19 第1、第2合同委員会—57年度活動報告、58年度活動方針および支部予算について

「構造」ということ

渡辺豊和

建築の構造も含めて「構造」という語はよく使われる。一番身近な例としては構造不況などとして使われることであろうが、この場合、具体的にどの様な意味で構造なる語が使われているかは経済にうとい小生としてはよくわからない。唯言葉のニュアンスと現実の経済状況から考えればこの「構造」とは現在の資本主義経済を形成している色々な仕組み、即ち過剰消費に対する設備投資という循環がスムーズに作動している時は経済成長が伸長するが消費が落ち込み続けた場合にはもはや経済成長を当て込んだ財政計画が破綻すると言った時にものごとの根本にかかわる変革が必要とされる。このものごとの根本、仕組みの基本的ことを指して「構造」と呼んでいる様である。哲学で「構造主義」というのがあり、これは二つ以上の事象、例えば違った二言語を比較しその類似、差異等から二つの言語の特徴を掴み出すのだが、特に差異の要因を追求することでもって二つの言語の成立ちや、文法、音韻、その他言語にとって重要な存立基盤の如きことを浮び上らせてゆく、この「構造」とは徹底した事象の比較対照によって浮かび上がる見えざる深層構造のことをさす。いずれにしても構造とは、ものごとの根幹を支える論理のことを指すのであって、建築構造にあっても単なる動物の骨格的なアナロジーによって成立する概念であってはならぬと思うのだが、構造とは至って哲学的な概念であるのだ。

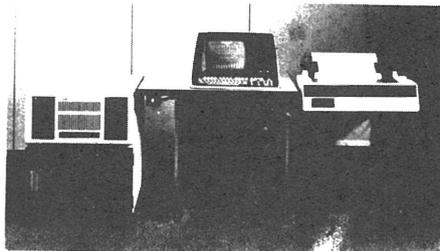
目黒のさんま

小泉 昇

標題は、古典落語の一つである。ご存知とは思いますが念のため大略の筋を記す。朝駆けのすきなある殿様が、お供を引き離して目黒に至った。朝食抜きの激しい運動で腹が減っている。茶店が目についたので何か食物をと所望したところ、さんまの塩焼きが出てきた。初めて口にしたらその美味さが忘れられず、城に帰って三太夫にさんまを所望する。さんまのような下賤なものは食膳に供したことがないので、万一を気づかって念を入れ煮つめて差出した。すっかり脂のぬけたさんまか？やっぱりさんまは目黒にかぎるナ……。

経験の貴重なことは言うまでもない。その貴重な所以は、それが論理的に認識されてこそである。その因果関係を略して、つまり短絡的に鵜呑みにすると思わぬ失敗をすることがある。特に対象が自然の物や事象の場合、それが著しい。我々の身近なものに例をとると、“土”や“水”に関してである。土質力学が科学として世にあらわれてまだ100年余りであろう。テルツァギーは、土質力学は医学と同様、まだまだ経験科学の域を出ていない。理論的な解明にはまだまだ日月を要することだろう、という意味のことを言っている。ある地点で成功した地下工法が他の地点で必ずしも成功するとは限らない。むしろ失敗例の多いことも我々は見聞きしている。成功した条件を論理的に把握してこそ、その経験は生かされるのである。柳の下に何時も泥鰌(どじょう)がいるとは限らないと言うことである。

# WANG 建築構造設計システム



限りなき未来を豊かにする

**伊藤忠データシステム**

〈ソフトウェア開発、販売〉



株式会社 エスエイビイ

System Analysis & Programming

〒541/大阪市東区北久宝寺町5-25東明ビル  
(伊藤忠データシステム大阪支店内)

☎ 06-252-7161 (代)

☎ 06-251-9670 (直通)

■(社)日本基礎建設協会との技術懇談会

日時 昭和57年9月7日  
場所 阪急ホテル

場所打杭施工業者の団体である(社)日本基礎建設協会(基礎協)関西支部から宇都宮支部長以下9名、当会から久徳支部長、青柳副支部長、林・樋口・真塚の各理事及び事務局金澤の6名が出席した。

●場所打杭施工時のトラブルについて

トラブルは施工手順を誤った場合に多く発生する。トラブルの発生時に、適切に対応出来る技術こそが求められる。最近孔内測定が可能になった為に検出される様になったトラブルとして、大阪市の南港・大阪地域で、深度50mを超える場

合に発生する大阪層群の応力解放に起因すると考えられる円弧迂りがあるが、その解決策は今のところ無い。

●場所打杭の支持力と設計について

学会の計算規準等で、場所打杭の支持力が他の工法のものに較べて一段低く押えられているが、先端処理に対する不信任に起因していると考えられる。現状では、アースドリル杭の先端処理は各社各様であるが、基礎協で統一出来ないか。スライム処理の工法では、ベントナイトを用いる場合にはジェット工法が最良であり、エアリフト工法は劣る。しかし、清水を用いる場合にはいづれも優劣は無い。

●場所打杭の経済性について

経済的な設計を行う為には、ベント杭の場合はなるべく径を変えないこと、アースドリル杭の場合は一台の施工機械で対応出来る範囲で杭径を選択することが望ましい。

●場所打杭の品質管理について

基礎協では、品質管理を徹底する為に独自に「場所打ちコンクリートぐい施工指針」を制定し、基礎施工管理士の認定を行っている。「施工管理指針」を確立することも必要であるが、単に報告書の体裁を整えるだけでなく、採取したデータを次の技術の改良にフィードバックされなければならない。

■(社)鉄骨建設業協会との

第二回技術懇談会

日時 昭和57年11月19日  
場所 好文クラブ

(社)鉄骨建設業協会(鉄建協)関西支部から豊田専務理事以下9名、当会から内田・宇藤・加藤・境・寺戸・安田の各会員、事務局金澤の7名が出席し、実務担当レベルで意見交換を行った。

●設計図書の実現と内容について

最近の設計図面は詳細図が少なく、その

為に工作図作成に時間と費用がかかるのと指摘があった。今後共、設計の省力化から同じ様な傾向を辿るであろうから、この現実を踏まえて対応して欲しい。

●設計ディテールについて

主として加工の省力化から、設計ディテールの規格化・簡素化が求められた。また、当会の方で標準設計ディテールの様なものを創り、ディテールの統一を図ることを考えないかとの提案があった。設計上、そう簡単に規格化・統一化は考

えられないが、ディテールを考える上で役立つ工作上的経験から得られた情報を、設計者に提供することを考えて欲しい。

●コストダウンについて

加工コスト上、加工工数の軽減の重要性が述べられた。しかし、鉄建協側の言う方策を採った場合に、設計者側から見た鉄骨工作費の低減は確約されなかった。設計者側からは、鉄骨価格の不明確さが、我々のディテール設計に対する考案の意欲を殺いでいる。

定例研究会報告

PRC構造とアンボンド工法

松谷輝雄

従来のフルプレストレス(I種PC)パーシャルプレストレス(II種PC)にPRC構造(III種PC)が新しく追加されるのが目玉となる告示949の改正が近く行われる予定です。

プレストレスは応力を打消すように外力を加えるため僅かのプレストレスでも断面性状(ファイバーストレスから生じる曲げヒビワレ)の改良に効果が顕著です。従来のPCは長期荷重に対してI種、短期荷重に対してII種として規定されていて部材に曲げヒビワレは発生しないと考えます。そのため平均プレストレスは相当に高いレベルにあります。そこで若干のヒビワレを認めるPRC造の思想はPCとして把えるより、RC造からアプローチする方が良いかと考えます。即ち、RC造の弱点をカバー出来る合理的な構造へ質を高めることとなります。

学会のPRC造設計指針(案)ではプレストレスのレベルの認識として、ほとんどヒビワレの生じないと考えるものから0.2mm程度のヒビワレを許容する範囲のものまでを別表のように分類しています。之に荷重係数を導入した終局強度設計法は従来のPC構造と同じですが、耐震設計の方法としては従来のPC的な手法とRC造的な検討の二段構えが考えられているようです。

PRC造の場合はPC鋼材の使用量が少なく、モノストランドとしての使用が施工上も簡便です。更にグラウトの要らないアンボンド工法が最良の方策と思われませんが、学会指針(案)で地震荷重を受け

る部材(耐震壁・大はり・柱)にはアンボンド工法は使用出来ないことになっております。その大きな理由としては、アンボンドPC部材の力学的性質が基本的にはボンドのあるものと同じで、特に曲げヒビワレ発生以前の弾性範囲内では差が認められないけれども、曲げヒビワレ発生以後の弾塑性範囲では曲げ破壊耐力の低下傾向、ヒビワレ間隔とヒビワレ巾の増大の傾向がみられることと繰り返しの引張力が全て定着端部に集中してしまうことになるからと思われます。アンボンド架構での押し引き実験のデータ数が少ないことにもよるのでしょうかが実験数が揃えば近い将来地震荷重を受ける部材への応用も実現するでしょう。

PRCの細区分

|                             |         |                                |              |
|-----------------------------|---------|--------------------------------|--------------|
| プレストレス<br>鉄筋コンクリート<br>P R C | III t   | $\sigma_t = Ft$ (引張強度)         | ひびわれ発生の可能性あり |
|                             | III t b | $\sigma_t = Ft b$ (曲げ引張強度)     |              |
|                             | III 0.1 | 曲げひびわれの発生 $w = 0.1 \text{ mm}$ | ひびわれ発生       |
|                             | III 0.2 | 曲げひびわれの発生 $w = 0.2 \text{ mm}$ |              |

但し、表現上便宜的に分けているだけで実際の設計に当っては設計者の判断で目標を設定する事になる。

●会員の紹介

横井 元昭

- 勤 ㈱大林組本店技術部
- 趣 音楽、囲碁



システムの活力は内容の多様性で安定を得ると云う原則がある。需要や資源の今後を考えると、設計、材料、工法を含む構造技術のシステムも整理はされても一層多様複雑になって行くだろう。構造家コミュニケーションの場は益々大切になると思われる。

安田 光世

- 勤 安田建築事務所
- 趣 読書



新耐震も分る事、分らない事それなりに固まってきた様です。分らぬ所は適当に処理しておりますが、最近の不景気と相俟って、気分がすっきりしません。元来設計とは、行きつ戻りつ、又それが勉強になるもんだと自らに言い聞かせて、日々悪戦苦闘しております。

西澤 清

- 勤 ㈱昭和設計 常務取締役
- 趣 軟式庭球



構造計算の方法は、学会の規準や建設省の告示等によってこまかく規定されており、一定の条件を与えることによって、どんな複雑なものでもコンピューターの利用でもっともらしい答えが出てくる昨今である。注意しなければならないことは、このような設計方法だけでよいのかを、学生時代に勉強した力学の原点にかえて設計書を数値にこだわらずにチェックする習慣を身につけることである。

辻 英一

- 勤 ㈱安井建築設計事務所
- 趣 史跡サイクリング



業務量の相対的減少・コンピュータ公害・過度の行政指導・学術研究と設計技術の混同・技術の巨大化複雑化・これらにともなう経済的社会的地位の低下など構造設計関係者をとりまくうっとうしい材料にはこと欠かない状況です。

構造家を全くの過去の延長線上で定義・確立させるのは次第に難しくなってくると考えていますが、ライフワークとして情熱のもてる職能であってほしいと念願しています。

松谷 輝雄

- 勤 ㈱鴻池組設計部
- 趣 ゴルフ、囲碁



新耐震の施行前には、新耐震設計法が構造家の発言力を増すだろうと云われていました。手間は確実に増えましたが、発言力は如何なものでしょう。発言力の高揚のために構造家個人の努力は当然ですが構造家懇談会が後楯となってくれることを望みます。

北村 俊男

- 勤 清水建設㈱設計部
- 趣 囲碁、テニス



構造学という、立派な名前には多少の抵抗を感じるが同じような仲間が集まって肩を張らずに共通の言葉で話し合えるならば、大変結構なことと思います。

三宅 司郎

- 勤 ㈱三宅建築事務所
- 趣 魚つり(湖・川)、ゴルフ、麻雀



事務所を設立して、早くも12年になりますが、サラリーマンの頃は構造設計の先輩に気軽に技術的な諸々の問題を話し合う機会が多く有りましたが、所長になってからは、立場的に気軽というわけにもいかず、少し寂しく思っていた矢先構造家懇談会に入会させていただき、これを機に、あらゆる業界の諸先輩に教えていただく事が出来れば幸いと思ひ、はりきっています。よろしくお願ひします。

渡辺 勲

- 勤 大成建設㈱大阪支店
- 趣 登山・版画・ゴルフ



社会の動向に伴って建築の価値概念が複雑化、高度化と変化する中で、様々なファクターを考慮しなければならず、一人の構造屋の処理可能な範囲は限られていますので微力を痛感しています。

物を造る喜びを皆で分かち合い、心のゆとりを持ち続けるよう努力しているつもりですが、構造家懇談会での大先輩の情熱あるお話しは、興味深く、参考になります。今後の発展を期待します。

岡嶋 一仁

- 勤 大成建設㈱大阪支店設計部
- 趣 釣り、園芸、囲碁



構造家は単なる計算屋で終わってはいけないと思います。幸い、新耐震設計法の発足以来、建築計画時点での参画が多くなり、プランナーとしてのセンスも大事になって来ました。

懇談会に対しては、支部の活動を積極的に展開し、関西の構造家の横の連絡を密にし、人間関係の充実を計って行きたいと思っています。

巢山 繁雄

- 勤 戸田建設大阪支店建築設計
- 趣 複数…マージャン、ゴルフ  
単数…音楽鑑賞、読書



最近では部内の運営管理業務が主たる仕事です。入社以来、構造設計に携わって今日まで20数年、新耐震になってややこしい話がぐんと増えた感じですが、細部の数字にとらわれることなく構造設計の本質を見失なわないようにしたいものです。

谷尾 俊弘

- 勤 ㈱イオリ建築設計事務所
- 趣 ゴルフ、鑑読



『今日の後(あと)に今日は無(な)し』常に生き甲斐を求めて何か「Challenge」し充実した毎日を過ごしたいと思いつつ……。

「新耐震」が施行され技術的な情報が、私共のような小事務所では入手出来ないため家では常に刊行物に目を通すよう心掛けながら、つい『阪神-?』戦のテレビ中継に目がいく今日此頃。39年以来優勝なし。

徳永雄一郎

- 勤 オリエンタルコンクリート㈱
- 趣 大阪支店建築部設計課



PSコンクリートと云う特殊分野一筋にやってまいりましたので、胸を張って構造家ですとはいいいにくいのですが、縁あってお仲間の端に加えていただきました。

●編集雑感 会員の皆さん、明けましておめでとうございます。支部設立後初めてのお正月ですが、今年はまた一段と景気の冷え込みが心配されて居り、多難な年となりそうです。その様な厳しい環境の中でも当懇談会を盛り立て、発展させる様頑張って行こうではありませんか。

発行 構造家懇談会関西支部事務所  
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112